

Title	伊藤行雄教授略歴・業績
Sub Title	Biographie Yukio Ito
Author	
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2011
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. ドイツ語学・文学 (Hiyoshi-Studien zur Germanistik). No.48 (2011.) ,p.309- 313
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	伊藤行雄教授 退職記念号 = Sonderheft für Prof. Yukio ITO
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10032372-20110331-0309

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

伊藤行雄教授 略歴・業績

生年月日 1945年（昭和20）9月21日生
 （10歳まで千代田区神田多町で過ごす。その後港区青山南町に転居）

学歴

1952年（昭和27）3月	千代田区立神龍小学校入学
1958年（昭和33）3月	港区立青山小学校卒業
1958年（昭和33）4月	港区立青山中学校入学
1961年（昭和36）3月	港区立青山中学校卒業
1961年（昭和36）4月	港区私立芝高等学校入学
1964年（昭和39）3月	港区私立芝高等学校卒業
1964年（昭和39）4月	慶應義塾大学文学部入学
1968年（昭和43）3月	慶應義塾大学文学部独文学専攻卒業
1968年（昭和43）4月	慶應義塾大学院文学研究科修士課程独文学専攻入学
1970年（昭和45）3月	慶應義塾大学院文学研究科修士課程独文学専攻修了 （学位取得）
1970年（昭和45）4月	慶應義塾大学院文学研究科博士課程独文学専攻入学
1973年（昭和48）3月	慶應義塾大学院文学研究科博士課程独文学専攻単位 取得

職歴

1970年（昭和45）4月	慶應義塾大学経済学部助手
1976年（昭和51）4月	慶應義塾大学経済学部助教授
1977年（昭和52）3月～1979年（昭和54）3月	チューリヒ大学留学（福澤基金による）
1988年（昭和63）	慶應義塾大学経済学部教授 現在に至る

学内役職（経済学部）

1979年 6月～1982年 6月	（3年）	経済学部人事委員
1981年 10月～1985年 9月	（2期4年）	経済学部企画委員

1980年 6月～1997年 3月	(8期半 17年)	経済学部カリキュラム委員
1997年 10月～2003年 9月	(3期 6年)	経済学部運営委員
2006年 10月～2010年 3月	(4年半)	創立150年記念事業検討委員会(経済学部)委員(日吉カリキュラム作業部会座長 2008年 4月～2009年 7月 (13回))

その他

1982年 6月～1983年 3月	(9ヶ月)	日吉図書館建設委員会委員
1990年 10月～2000年 9月	(5期 10年)	日吉紀要委員長
1995年 10月～2001年 9月	(3期 6年)	日吉語学部門主査
2005年 10月～2011年 3月	(3期 6年)	日吉語学部門主査, (通算 6期 12年)
2001年 10月～2009年 9月	(4期 8年)	日吉メディアセンター所長 兼日吉図書館長
1991年 10月～1995年 9月	(2期 4年)	日吉研究室運営委員長
2003年 3月～2007年 10月	(2期約 4年)	外国語教育研究センター学事委員会委員
2006年 6月～2008年 12月	(2年半)	独立コア基本設計検討グループ委員
2005年 4月～2011年 3月	(3期 6年)	教養研究センター・プロジェクト「基盤研究」座長
2005年 4月～2008年 3月	(3年)	日吉キャンパス公開講座運営委員
2007年 10月～2011年 3月	(2期約 4年)	外国語教育研究センター外国語教育研究センター学事推進委員会委員
2006年 4月～2011年 3月	(5年)	慶應義塾体育会ボクシング部部長
2006年 5月 20日～6月 3日	港区民大学コーディネーター	毎週土曜日 3週間主催, 慶應義塾大学, 港区スポーツふれあい文化財団
2007年 4月～2011年 3月	教養研究センター	コーディネートオフィス会議メンバー (旧研究企画ボード)

2008年 6月～2011年 3月 (2年半)

日吉カリキュラム検討委員会委員

学外

1991年1月26日～2008年2月 (9期18年)

(財) 辻アジア国際奨学財団選考委員

1995年2月より現在に至る (8期16年) (財) ヒロセ国際奨学財団評議員

1996年11月～2007年4月 (約11年)

(財) ドイツ語学・文学振興会 理事 (常任理事)

2008年2月より現在に至る (財) 辻アジア国際奨学財団評議員

著作物, 論文, 評論, エッセイ, 書評など

「初期のリルケの内部空間—— 1」(論文) (『慶應義塾大学経済学部日吉論文集』

No.15 pp.1-52; 1971年3月

「初期のリルケの内部空間—— 2」(論文) (『慶應義塾大学経済学部日吉論文集』

No.17 pp.74-110; 1972年3月

「初期のリルケにみられる『事物』」(口頭発表) 1972年12月9日 (藝文研究発表会) (彙報:『藝文研究』32号, pp.71-72; 1973年3月)

「自己否定の論理——チャンドス卿とホーフマンスタールとの可視的距離」(評論) 『三田文学』Vol61. No.8, pp.48-58; 1974年8月

「アルプスの少女ハイジ」(物語のある街角) (エッセイ) 『爽』91号 pp.5-11; 1975年8月

「ブレーメンの音楽隊」(物語のある街角) (エッセイ) 『爽』94号 pp.6-13; 1975年11月

モーリス・ツェルマッテン『晩年のリルケ』(共訳) 芸立出版 p.348; 1977年11月

K.E. ウェップ『リルケとユーゲントシュティール』(共訳) 芸立出版 p.262; 1980年12月

「ヴァルモン療養所」(エッセイ) 『Brunnen』No.224 郁文堂; 1980年6月

「蛙の詩人」(エッセイ) 『三色旗』388号; 1980年7月

「パリのエピソードにみられる『マルテの手記』の作品構造」(論文) (塚越敏教授退任記念論文集) 『藝文研究』No.43 pp.298-313; 1982年12月

「原風景としての図書館」(エッセイ) 『KULIC』17号 慶應義塾大学研究・情報センター p.46; 1983年11月

- 「クラスと『知の共同体を求めて』」(エッセイ)『慶應義塾大学報』149号; 1984年2月
- 巻頭詩連載『三田評論』866号～871号; 1986年1月～6月
- ルー・ザロメ『ライナー・マリア・リルケ』『ルー・ザロメ著作集』(共訳)4巻 pp.1-162 東京 以文社 p.280; 1986年1月
- ルー・ザロメ「ロシア旅行」「鏡の中で——自伝的スケッチ」(翻訳)『ルー・ザロメ著作集』(別巻) pp.227-236 「年譜」(作成) pp.257-266; 1986年1月
- 『球形の旅路』(詩集)東京 書肆山田 p.129; 1987年12月
- 「生と死と都市と」(対談 高井哲彦)『読書のいずみ』33号, p.22-29; 1987年12月
- 新著余瀝「球形の旅路」『三田評論』891号 p.102; 1988年4月
- 「リルケのフォーゲラー論」(論文)『慶應義塾大学日吉紀要 ドイツ語学・文学』第6号 pp.1-4; 1988年2月
- 「さようなら 草野心平さん」(三人閑談 申田孫一, 佐藤朔) (鼎談)『三田評論』901号 p.80-91; 1989年3月
- 「実存への郷愁の詩人——村野四郎にみられるリルケ」(評論)『三田文学』16号 p.158-178; 1989年2月
- 「鈴木俊編訳『現代ドイツ詩集』(土曜美術社)」(書評)『風』116号 p.86-87; 1990年7月
- 『リルケ全集』全10巻, 第6巻: 散文1『人生に沿って』『最後の人びと』その他の散文・スケッチ(翻訳) 河出書房新社 pp.147-536; 1990年10月
- 「鈴木俊訳『エルフリーデ・スッペテッキ詩集』(法文館出版)」(書評)『風』127号 pp.96-98; 1993年4月
- 『朝吹亮二詩集』(思潮社) (新著紹介)『三色旗』534号 p.32; 1992年9月
- 「東京——私の原風景」(三人閑談 高橋昌男 田中早苗) (鼎談)『三田評論』951号 pp.80-90; 1993年10月
- 追想「島田 勝さんを憶う」『三田評論』974号 pp.96-97; 1995年11月
- 「知への旅立ち, カウントダウン——半学半教」(エッセイ)『塾』No.206 p.16; 1997年7月
- 「知と創造のエロスははぐくむチューリヒ——世界の大学街12」(エッセイ)『三田評論』984号 pp.82-86; 1996年10月
- 「言葉と生活習慣——異文化に触れて, 自国を知る」(巻頭)『アジア交流』83号 p.2; 2004年4月
- 「田口義弘訳・註解『リルケ——オルフォイスへのソネット』(河出書房新社)」(書評)『人環フォーラム』13号 京都大学大学院 人間・環境学科 p.64;

2003年7月

「図書館の風景」(巻頭)『MediaNet』No.9 日吉メディアセンター p.4; 2003年3月

「言葉と生活習慣——異文化に触れて、自国を知る」(巻頭)『アジア交流』83号; 2004年4月

「甦る水の都市 東京——都市とウォーターフロント」(特集座談会:陣内秀信 矢田美英 助川たかね)『三田評論』1081号 pp.10-22; 2005年7月

「日吉図書館建設の頃 序に代えて」(巻頭)『慶應義塾日吉図書館 開館20年記念誌』, 慶應義塾大学日吉メディアセンター p.0; 2006年4月

「都市の風景と建築」(横文彦)(対談)『慶應義塾日吉図書館 開館20年記念誌』, 慶應義塾大学日吉メディアセンター pp.6-9; 2006年4月

「『忘れること』の意味——経験を内面化する」(巻頭)『アジア交流』102号 p.2; 2007年4月

「リルケの『マルテの手記』について」(エッセイ)『慶應塾生新聞』; 2007年6月

「ボクシング部と壘谷の自然環境」(エッセイ)『体育会月報』; 2008年2月号

「1950年代の東京」(三人閑談 長野重一 白石 孝)(鼎談),『三田評論』No.1114 pp.80-91; 2008年7月

「塚越 敏先生を想う」(追想)『ひろの』48号 pp.10-11; 2008年11月

「日吉カリキュラム等調整部会」「ボクシング部」(項目)『慶應義塾史事典』; 2008年11月

「挫折の先に見えてくる〈モノ〉」(巻頭)『Newsletter』No.11 教養研究センター p.1; 2008年11月

「小淵さんを想う」(追想)『三田評論』No.1120 p.109; 2009年2月

「清水雅彦」新常任理事の横顔(プロフィール)『三田評論』No. 1126 p.100; 2009年8・9月

『慶應義塾大学の教育カリキュラム研究——改革への処方箋』(2005～2006年度基盤研究報告書)(監修・執筆)慶應義塾大学教養研究センター p.200; 2007年3月

『慶應義塾大学の教育カリキュラム研究——4年間を見越した教養教育の研究』(2007～2008年度基盤研究報告書)(監修・執筆)慶應義塾大学教養研究センター p.179; 2009年3月